

知る 広がる 好きになる

たかつき DAYS

令和2年

4

No.1385

わがまち自慢、富田ガイドツアー

Interview
富田エリアの皆さん



わがまち自慢、富田ガイドツアー

風情ある街並みが広がる富田エリアを紹介する、誌上ガイドツアーを企画しました。地元の方の協力のもと、関西大学の学生たちと富田の街に出発！



内容盛りだくさんのツアーです。どんどん行きましょ〜

アテンダント
けさたと会

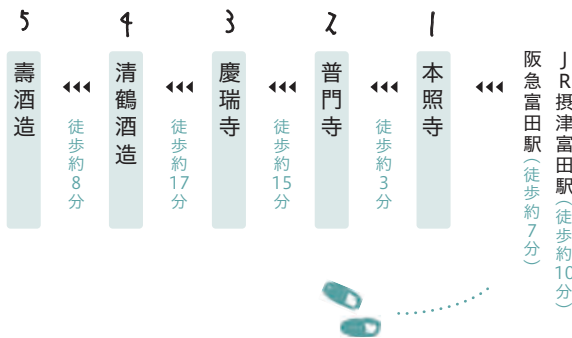
左: 西田喜彦(にしだよしひこ)さん
右: 笹井仁志(ささいひとし)さん

富田の歴史や文化を発信するため、平成2年、地元の有志で結成された「けさたと会」。富田を知り尽くした西田さんと笹井さんが、ツアーを案内してくれました。

ツアー参加者
関西大学
総合情報学部

- 左から…
- 桐村聡(きりむらさとし)さん 3年次生
 - 磯貝香緒(いそがいかお)さん 3年次生
 - 東慧輔(あずまけいすけ)さん 3年次生
 - 花田歌音(はなだかのん)さん 4年次生
 - 金子尚馬(かねこしょうま)さん 4年次生
 - 中津小春(なかつこはる)さん 4年次生
- ※4月時点

ガイドツアー行程表



にぎやかな駅前から 歴史を感じる富田の中心へ

出発は富田の駅前から。けさたと会の西田さん・笹井さんのもとに、関西大学総合情報学部の皆さんが集まりました。今回の誌上ツアーに参加してくれた6人は、通学で富田を経由しているもの、実際に街を歩くのは初めてとのこと。この街の長い歴史を伝えるため、開始

早々、西田さんのガイドにも熱が入ります。「富田は緩やかな台地上にあって、自然災害が少ないのが特徴。昔から人がたくさん集まっていた場所で、明治の頃までは、商店がずらりと並び市場通りも



ほんしょうじ 本照寺

室町時代に創建された、浄土真宗本願寺派に属する寺院。江戸時代に「富田の御坊」と称され隆盛を極める。かつては、東西50m・南北40mに枝を伸ばす「富寿栄之松」が境内を覆っていた。本堂は、「歌の集い」など地元の人々が集まる場でもある。

TEL:072-696-0639



富田ってこんなところ

古くから交通の要衝であり、物資の集散地として栄えた富田。戦国時代は寺内町として栄え、江戸時代以降は酒造りを中心に商工業の町として発展しました。最盛期には24の酒蔵が軒を連ねたそう。



物資の集散地として発展

酒造りが盛ん

あったんやで」。西田さんの話を聞きながら、一行は、立派な本堂がそびえる本照寺を目指します。

境内で迎えてくれたのは、副住職・日野唯真さん。お寺の歴史を話しながら、広い庭に続き、本堂と書院を案内してくれました。一本の木でできた柱や、樹齢700年に及んだ「富寿栄之松」の樹根で作った火鉢などを見学し、ツアーは驚きの連続です。

本堂では、けさたと会との共催で、カンツォーネのコンサートが開催されたこともあるそう。荘厳な本堂に響き渡る歌とバイオリンが好評だった、と日野さんは当時は振り返ります。今後も、お寺を活用したイベントに期待が高まります。

富田のカフェでランチタイム



出世地蔵に成功を祈願
祝活の



清鶴酒造

江戸時代、徳川家から特権を与えられ、造り酒屋であった豪商「紅屋」の流れを汲む酒蔵。安政3(1856)年の創業以来、できる限り手作りの工程を生かし、伝統の味を守り伝えている。
TEL:072-696-0014



歩いて向かったのは、摂津国の守護・細川晴元や、明の高僧・隠元と縁の深い普門寺。ここでは同寺の寺庭・鷲見聡美さんが、ツアーを案内してくれました。最盛期には、現在の何倍もの寺域を有したものの、明治時代の廃仏毀釈をきっかけに、荒廃の一途をたどった普門寺。そこで立ち上がったのが、先代の住職でした。隠元ゆかりのお寺を後世に伝えるため、愛知県から無人寺となっていた普門寺に移り、今の美しい景観を取り戻した先代。その心は、現在の寺庭にしっかりと伝えられ、今も境内には、天橋立を表現したと伝わる枯山水庭園など、四季折々の植物に彩られる美景が広がっています。

驚見さんは、貴重な襖絵や、柿葺の屋根について、保存・継承することの大変さを教えてくれました。次に訪れたのは、富田の西端に位置する慶瑞寺。こちらでも、貴重な寺宝の数々を見学できました。中でも驚きだったのが、全国の博物館から引く手あまたという「木造菩薩坐像」。重要文化財に指定されるほど貴重なものですが、昭和61年、古い棚にボン、と置いてあったものを住職が偶然見つけたのだから！1300年以上続く、お寺の歴史を感じずにはいられません。最後に慶瑞寺の歴史をまとめた書籍を拝見してから、一行は富田の酒造りを守る二軒の酒蔵を訪ねるために再出発。まずは、江戸時代の蔵を再建した、清鶴酒造に向かいます。

歩きたびに出会う、富田の歴史スポットたち



こけらぶき 柿葺の屋根の構造



三輪神社

酒の神様を祀る神社として、地域の信仰を集める。境内の大鳥居は、富田の酒造りで台頭した豪商「紅屋」の寄進によるもの。大晦日には、大注連縄作りが行われ、多くの人が参拝に訪れる。
TEL:072-696-0203



普門寺

摂津国の守護・細川晴元の隠居所になり、永禄11(1568)年には、この寺で足利義栄が室町幕府14代将軍に就任。明(中国)の高僧・隠元が、宇治に万福寺を開くまでの約7年半、この寺に滞在したことでも有名。庭園の奥には細川晴元の墓が安置されている。
(拝観料400円要・事前予約)
TEL:072-694-2093

三輪神社を通過して
普門寺へ



慶瑞寺

持統天皇8(694)年に創建され、江戸時代には黄檗宗に属する。寺に安置されている木造菩薩坐像は、8~9世紀の作とみられ、重要文化財に指定されている。後水尾法皇と縁が深く、勅書のほか、歯や遺骨を納めた聖歯塔が残る。
TEL:072-696-0733



少し歩いて



学生6人がプロデュース

富田の魅力 MAP

ガイドツアーに参加した学生が自ら、取材を実施。
リアルな声を盛り込んだ、オリジナルの富田マップが完成しました！



いざ出発！

カンパニー！

カエルのラベルがとってもかわいいビールを試飲！ 独自の手法で、純米酒を加えて作るビールもあるそうです。

駅間はお店がいっぱいで特ににぎやか！

JR根津富田駅

本堂の柱は一本の木から切り出されたもので、今の技術では新しい木製の柱を作るのは難しいそう。

ランチはポリューミー

小寺池

清蓮寺

高井池公園

本照寺

普門寺

出世地蔵

三輪神社

はる遊食堂

延命地蔵

パシヤ

かわいい木を発見

音はこの通りが市場通りだった

この寺を中心に寺内町が形成された

境内には、海軍大将・東郷平八郎の書と伝わる鐘樓の額がどこかにあります。探してみてください。

重要文化財に指定されている方丈、かつては阿武山が借景となっていた名勝・枯山水庭園など、見どころいっぱい。

府道133号

富田小学校

富田幼稚園

昭和台南公園

慶瑞寺

府道132号

清鶴酒造

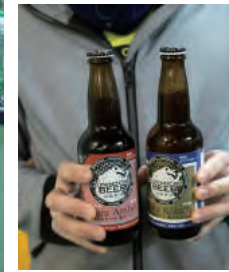
敬行寺



ことぶき しゅ そう 壽酒造

平成6年の規制緩和によって小規模のビール醸造が可能になった直後、大阪で初めて地ビールの生産を開始。平成17年からは、大吟醸酒の酒粕を使った焼酎造りもスタート。伝統の酒造りを守りながら、新たな製品開発にも力を注いでいる。

TEL:072-696-0003



全国に名を馳せた銘酒 「富田酒」の魅力を知る

富田で酒造りが始まったのは、室町時代のこと。「阿武山山系の清水が、酒造りを発展させた大きな理由。最盛期を迎えた明暦年間には、24軒もの酒屋が集まってたんだ」と西田さん。かつて富田酒は、元禄期のグルメ本「本朝食鑑」に、池田、伊丹の酒と並んで賞賛されるほど、銘酒と名高かったそうです。

清鶴酒造の社長・石井清祐さんに案内されて、蔵に入ると、お酒の甘い香りがふんわり。しんと冷えた蔵の中で、「おいー！」「おいー！」と、威勢の良い掛け声が飛び交います。「今はちょうど、洗米の最中ですね。日本酒の醸造では、米の浸水時間が10秒違うだけで味が変わります。状態を見ながら時間を決めるのは、蔵人を監督する杜氏の仕事。彼の指示のもと、掛け声をかけながら作業をしています」。

日本酒の醸造の流れを丁寧に説明いただいた後、お待ちかねの試飲タイム。出来たてのお酒は二酸化炭素が含まれているので「シュワシュワする！シャンパンみたい！」と、一同びびくりでした。

長時間にわたるツアーの最後を飾るのは、日本酒に加えて、地ビールと焼酎を醸造している壽酒造。今回は、社長の橋本憲治さんが、ビール造りを案内してくれました。「ビールはキンキンに冷やし

富田の景観を作る町家建築

富田の街を歩くと、伝統的な建築様式の町家に出会うことができます。町人が武士を見下ろさないように建物の高さを抑えたといわれる「厨子二階」に、換気や採光のための「虫籠窓」や「格子窓」など、細部にも注目してください。



代々庄屋を務めた坂田家住宅

※取材時学生は全員20歳以上です。

で、喉越しを楽しむのが一般的ですが、地ビールは5〜10℃でじっくり味わって飲むのがおすすめ。小規模醸造だからこそできる、強い香りを楽しんでください。もちろん、こちらでもみんなで試飲タイム。橋本さんに味の違いを聞きながら、2種の地ビールで乾杯です！



◀ インスタグラム高槻市公式アカウントで『たかつきDAYS』4月号のこぼれ話を配信中！